

自己評価及び外部評価 結果

作成日 平成28年7月21日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2775400266		
法人名	株式会社 ライフパートナー		
事業所名	グループホーム アムール忠岡		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	〒595-0805 大阪府泉北郡忠岡町忠岡東2丁目15-38		
自己評価作成日	平成28年6月1日	評価結果市町村受理日	平成28年7月27日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市三田町1797番地
訪問調査日	平成28年6月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居されている利用者様と地域の行事や活動に参加させて頂き、敷地内に祀っているお地蔵様を囲んでの地蔵盆では地域の親子さん達を招待しています。年末には餅つきを行うなどふれあいと地域への貢献を考え行動しています。昨年は役場の依頼でRUN伴に参加しています。また、利用者様への対応として家族様が希望すればターミナルケアを実施しており実績がございます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

グループホームアムール忠岡は、南海本線忠岡駅から徒歩5分、近隣にはスーパーマーケットなど地元の商店が集中する大変便利なところであるが、周囲は田畑が残る静かな環境にある。

法人理念に基づいた「月間目標」をユニットごとに作成している。月間目標の達成に取り組むことが理念の実践につながるように工夫している。月間目標は月末に見直し、次月の月間目標を作成している。

2ヶ月に1回、本事業所の利用者全員で結成している「仲良し会」の集まりを開催し、利用者から直接暮らし方の意向や食事等の希望を聴く機会としている。ここでの意見や要望は運営面に反映し、利用者本位のサービスの提供に心がけている。

また、地域とのつきあひも積極的に行なっており、町内の美化活動をはじめ、ふれあい大会や盆踊り、保育所の慰問や役場の依頼でRUN伴(認知症の人や家族、支援者、一般の人が少しずつリレーをしながら、1つのタスキをつなぎ、ゴールを目指す全国規模のイベント)に利用者職員と一緒に参加し、利用者が地域の一員となつてつながりが継続できるよう取り組んでいる。

ターミナルケアについては早い時期から、事業所が文書化した「看取り介護の指針」に基づいて、将来の重度化や終末期に向けた方針等の話し合いを利用者や家族と行なっている。これまで2年間に5名の利用者を看取り、職員の大きな自信と仕事のやりがいにつながっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各フロアに理念を掲示し職員に周知している。入職時にも理念の説明をしている。また、朝礼時に理念の復唱を行っている。	事業所の出入口と各ユニットに理念を掲示している。また、職員採用時をはじめ、朝礼時に定期的（2週ごと）に理念を唱和し、職員全体への周知を図っている。理念の実現に向けては月間目標を設定し、その実践に心がけ、月末には評価を行い、次月の目標を決めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し地域の催しに参加している。町内会の美化運動又は廃品回収に参加している。地域主催の盆踊り、ふれあい大会に参加している。	町内会に加入し、毎月第1日曜日の美化活動や廃品回収などの活動の他、ふれあい大会、盆踊り、餅つきなどの地域行事にも積極的に参加している。また、隣地のビワの実を採らせてもらったり、桃の花を觀賞させてもらうなど近隣住民との関係も良好である。昨年は保育所を利用者と一緒に訪問し、幼児との交流を楽しんでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通してホームの理解を促している。アムール主催の行事に子供会・老人会を招待し参加して頂いている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者状況や行事又は解決すべき課題を報告している。利用者様にも参加を促し良い雰囲気での交流が出来ている。	運営推進会議は年に6回、偶数月に開催している。地域包括支援センター職員、町社会福祉協議会職員、自治会会長、老人会会長の他、民生委員、利用者やその家族が参加している。事業所の活動状況や、地域行事参加の報告などと共に、地域の催しや行事の予定等の情報もこの会議で確認している。会議の内容は議事録にまとめて職員間で共有し、日頃の支援に活かしている。		

5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>役場から依頼があればすぐに、介護相談員を受け入れている。</p>	<p>町役場には月に1回、事業所の利用状況を提出している。また、定期的に介護相談員を町役場からの依頼で受入しており、町とは日頃から協力関係を築いている。さらに、イカロスネット（医療介護地域推進ネット）やRUN伴（らんとも）への参加を積極的に行なっている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>社内研修にて身体拘束廃止の取り組みについて理解を深めている。</p>	<p>年に1回全体会議の中で身体拘束防止に関する研修会を開催している。不参加者にはレジュメ等資料を回覧している。また日頃のケアにおいても、その都度管理者がチェックし、職員にその場で注意するなど、身体拘束のないケアへの取り組みを実践している。なお、玄関鍵については安全面を優先させ、日中時間帯の開錠等には至っていない。</p>	<p>玄関の鍵の施錠に関しては、運営推進会議でも毎回、経過報告がなされているくらい参加者の関心度も高い。事業所も日中時間帯の開錠に向けた取り組みを継続しており、今後に期待したい。</p>
7		<p>○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修に参加したり、資料を配布している。フロアリーダーに関してはスタッフのストレス軽減や悩みに耳を傾けている。</p>	/	/
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修に参加を促し資料配布と共に制度の有効活用できるよう心がけている。</p>	/	/
9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に管理者より説明を行っている。同意を頂くまで時間をしっかりと対応している。</p>	/	/

10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の家族へ運営推進会議参加をお願いし情報収集を図るとともに、下駄箱付近には意見箱を設置している。家族様面会時にはご利用者様の状態を随時報告し相談している。</p>	<p>家族の面会時に運営に関する意見等を聴き取る機会を設けている。面会が少ない家族には電話で話す機会をつくっている。運営推進会議においても家族や利用者に参加を促し、意見等を聴き取る機会を設けている。しかしながら、いずれにおいても運営に関して家族等の意見が十分に聞き取れておらず、以前から設置している意見箱にも意見が投函されていない。</p>	<p>事業を継続する上で、利用者や家族の意見や要望を反映した運営は不可欠であり、そうした意見等を聞き取れていないのは残念である。今以上に、家族等が意見や要望を発しやすい仕組みづくりを行い、より良い運営が継続できるよう期待したい。</p>
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>毎月リーダー会議・フロア会議・全体会議を行っている。</p>	<p>管理者は日頃から職員が意見や提案を出しやすい雰囲気づくりに努めており、意見や提案は各会議で検討し、それらを運営に反映している。2階に面談室を設置したり、買い出しの方法を改善するなど、職員の提案による運営面の改善の事例は多い。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>フロアリーダーを中心に指導と状況把握を行っている。管理者より年2回夏と冬に職員の評価を行っている。</p>	/	/
13		<p>○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>社内研修への参加と事業所内で研修会を行っている。また、会社全体で相互研修を行い知識や技術の向上に努めている。</p>	/	/
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>2月に1回、町内の事業所連絡会に参加し情報収集や共有を図っている。</p>	/	/

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>本人の生活内容や趣味、嗜好品を家族より確認している。入居後はフロアスタッフにて担当を決め細やかなサービスを心がけている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人や家族様より今までの生活状況やアレルギーなどを含む嗜好と趣味を聞きケアに生かしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人の意思と家族様からの情報を基に相談に応じ、必要時他のサービスを紹介している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>なかよし会にて意向を聞き出している。利用者様の担当を決め利用者様のニーズに対応している。</p>		
19		<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族様より要望を聞きその情報は職員間で共有している。また声を掛けやすい関係づくりにも力を入れている。ケアプラン作成に意向を聞いている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族様や近所の友人等が定期的に面会がある。</p>	<p>利用者の古くからの友人や知人の訪問を積極的に受け入れている。また以前住んでいた土地や家を見に行ったり、以前利用した飲食店を訪ねることもある。</p>	

21		<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>食事の着席位置などに考慮し必要に応じて座席替えや部屋替えを行っている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>他施設、医療機関へ移られた場合はサマリー等で情報交換を行っている。退所後も必要に応じて相談や面会を継続している。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	<p>○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>各担当者が状態の把握を行い、趣味、嗜好を把握できるよう努めている。</p>	<p>利用者担当制を採っており、スタッフは日頃のケア等を通じて担当の利用者の意向等を聴き取っている。聴き取った内容は日報に記入し、職員間で情報共有すると共に、フロア会議で報告して日々の支援に役立てている。聴き取りが困難な場合は家族に聞いたりしながら把握に努めている。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>インテークの段階で生活歴を聞きだしその人に合った支援を見出している。利用開始時は馴染みの物を持ってきていただいている。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>利用者の日々の行動や訴えに対しての対応をカルテに記載し状態の把握に努めまた管理日誌にも状態の様子を記載し職員間で日々の状態を把握できるように行っている。</p>		

26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>フロア会議にて各利用者様の状態についてケアの方針や関わりについて意見を出し、必要時プランに反映している。</p>	<p>家族面会時等において利用者や家族の意見を聴き取り、フロア会議で問題点や課題を話し合い、担当者会議を開催している。担当者会議には必要に応じて訪問看護師や医師にも参加を促し、家族にも参加を呼びかけている。6ヶ月に1回は全体を見直し、その間変化が見られたときにプランを随時見直し、利用者の現状に即した介護計画の作成に取り組んでいる。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個人のケース記録に利用者様の状態を詳細に記載している。介護の方法等が急に変更される場合は申し送りノートにて情報の共有を図っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>必要に応じて、家族やご本人様と協力し可能な限り対応できるよう配慮している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>自治会の協力の下、運動会、餅つき、ふれあい大会に参加されている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>インテークの段階で家族に意向を聞き、家族の希望を十分に配慮している。体力的に負担のある利用者様については往診にて対応している。</p>	<p>現在は協力医療機関であるクリニック医師が月2回の往診を行なっているため、ほぼ全員がその医師をかかりつけ医としている。かかりつけ医への通院には遠方でない限り、事業所職員が同行している。受診結果は、病状に変化がある場合に家族に電話で報告している。職員間は申し送りノートで情報を共有している。</p>	

31		<p>○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>開設時より看護師を配置しているので常に相談できる体制を整えている。訪問看護ステーションの看護師とも連携を密に図っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時に看・介護サマリーを提供し情報交換を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末期の対応が必要になった場合は、主治医と家族様とカンファレンスを開催し、方向性や対応を検討していく。</p>	<p>「看取り介護の指針」を作成し、入居時にこの指針に基づいて事業所の方針を説明し、同意書を交わしている。重度化し看取りが必要になった場合、医師、家族、看護職員、担当職員等でカンファレンスを行い、確認した方針に沿ってチームで支援している。これまで2年間に5名の看取りを行っている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時対応マニュアルを作成している。勉強会を実施しマニュアルに沿って行動できる様に努めている。</p>		
35	13	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>社内研修にて非常災害の勉強会を行い防災に対する理解を深める。</p>	<p>年2回消防訓練（1回は夜間を想定して消防署の指導あり）を行っている。また年に1回は防災に関する社内研修を行っている。災害時には役場に自動的に通報できる設備を整えている。2階の踊り場は防火室となっており、利用者の一時的な避難場所としている。水、米や缶詰等の食料など概ね3日分の備蓄をしている。</p>	<p>実際の災害時には、地域との協力体制が不可欠であり、運営推進会議等を活用するなどして、災害時の協力関係の構築を進めていくことが望まれる。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>プライバシー保護対応マニュアルを作成 個人情報の取り扱いにも注意し、書類は必ず所定の場所に保管している。</p>	<p>人格尊重や虐待について社内研修を行っている。言葉がけが気になる場合は、管理者がその場で注意をしている。個人ファイルなどのプライバシーに関わる記録などは、事務所内の鍵付書庫に保管している。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>仲良し会を定期的に関き利用者様の意向や希望を聞き出している。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>その時の気持ちや体調に合わせて利用者様に無理がないように要望に添った支援を心掛けている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>定期的に訪問理容を活用している。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事やおやつ作りが可能な利用者については一緒に調理を行っている。 仲良し会の時に意向を確認し好みを確認し、誕生日の時などに提供している。</p>	<p>日頃は法人の管理栄養士が作成した献立に沿って事業所内で調理した食事を提供している。誕生会などの行事では、お寿司やたこ焼きなど「仲良し会」で聴き取った利用者の希望を反映した食事になっている。また、屋外でバーベキューを楽しんだり、外出行事でフードコートを利用するなど食事が楽しめるよう工夫をしている。利用者はお茶を配ったり、テーブルを拭いたりして、個々の力に応じて職員と一緒に食事の準備や片付けをしている。</p>	

41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事摂取量については熱計表にて毎日記載している。食事のメニューについては栄養士が作成している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の方は定期的に義歯洗浄剤にて洗浄を行っている。 定期的に歯科往診にて口腔内の異常の早期発見に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	失禁が多くなったりして、早急に必要があれば都度家族様に相談し対応している。排泄パターンを把握しその方に合った対応を心掛けている。	職員は利用者個々の排泄パターンを把握し、自尊心に配慮しつつ声掛けを行いトイレ誘導を行うことで排泄の自立に向けた支援を行っている。夜間はパット交換をしたり、トイレ誘導を行いながら、利用者の能力に応じた排泄の支援をおこなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取状況を把握している。 主治医と相談し、服薬にて排便のコントロールを行っており、必要時看護師にて浣腸、摘便を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	各利用者に応じて時間について配慮を行っている。本人の体調や気分に合わせて気持ち入浴できるように配慮している。利用者の状態に応じてシャワーキャリーを使用している。	入浴は週2～3回を基本として、本人の希望に沿って支援している。3日連続で入浴ができていない利用者には声掛けをして入浴を促すことにしている。浴槽の湯はその都度入れ替え、清潔を保っている。ゆず湯など季節に応じて入浴を楽しめる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度、湿度管理を行い心地良い環境作りに努めている。覚醒時間、睡眠時間についてチェックを行っている。定期的に(週1回)シーツ交換を行っている。		

47		<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬説明書をファイルしており、薬の説明、用量、副作用についてはスタッフ間で認識している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>家事、園芸、買い物等個人の楽しみに沿ったことを提供し、支援している。趣味や出来ることを活かし福祉事業連絡会主催の作品展示会に作品を展示している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>利用者様の意向に沿って散歩や買い物に出かけている。誕生日にはご本人様の希望の場所へ外出し、希望の食事を準備しお祝いする。</p>	<p>天気の良い日はグループホーム周辺の散歩コースなどを職員と一緒に散歩している。誕生日には、岸和田城など本人が行きたい場所にドライブに行ったり、喫茶店、買い物などへの外出を支援している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>可能なご利用者様については家族様同意の下ご自身で管理されている。ホームにて金銭管理されている利用者についてもご本人様の意思に沿った使い方にできるよう心掛けている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>希望に応じて電話は使用されている。</p>		

52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関先の畑に季節感のある作物などを植えて世話をしている。いつでも花や野菜が観賞できるよう玄関先にベンチを設置している。フロア内に温度・湿度計を設置し過ごしやすい環境作りに配慮している。</p>	<p>玄関前にはベンチを置き、季節の草花や野菜を觀賞したり、隣地のビワや桃を眺めることができる。居間兼食堂は居間スペースと食堂スペースの2空間を設け、それぞれにテレビを設置することで、利用者は日中を通じて好みの居場所で過ごすことができるように工夫している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>フロアに3台のソファを設置し、各ご利用者様が、マイペースに過ごせていただいている。</p>	/	/
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>インテーク時にご自宅の環境通りにベッドを配置したり、馴染みの物を持参していただいている。</p>	<p>持ち込むものに特に制限はなく、前の住まいで使ってきた家具等を居室一杯に持ち込んでいる利用者がある。利用開始時に利用者やその家族に馴染みのものや好みのものを持ち込める旨を伝えているものの、ベッドと衣類ケースのみしか持ち込んでいない利用者数名もいる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>段差の解消、手摺の設置、ベッド柵を個々に設置している。車椅子や歩行器の使用が十分可能なスペースは設けている。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	②	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	③	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	②	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	③	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができてきている	①	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	③	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	①	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働いている	②	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	③	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない